据え置きとなつた議員歳費

五千円賃上げ要求で物議をかもしていた議員報酬は、一部をのぞいて据え置きとなった。改訂されたのは常任委員長の報酬を千円値上げとし、一般議員との差をつけたもの。

これで、議長二万円、副議長、一万七千円、常任委員長一万六千円、議員一万五千円となった。

なお、従来支給され給与の二重取りと悪評のあった出務日当は廃止された。

---出張は二等運賃---

市長、職員、議員ら

旅費改正で同額に

市の旅費支給条例の改正にともない、従来一等運賃であった鉄道、船賃などは、すべて二等運賃となり、一日当も県内二百円、県外五百円に改められ、市長から議員、職員、すべてのものの旅費は全部同額となった。

十市に観光地

十市の西部山上にある私所の峯寺（みねんじ）附近を観光地に仕上げる運動は、数年前から進められていたが、最近また盛り返し、市当局にも地元から、実現について相談があった。

寺は岩山にあって眺望がよく、ふもと一帯はビニールハウスの園芸地帯。それに高知市種崎の隣接地で、交通の便にも恵まれている。

写真＝山頂にはタケノコのように、石灰石が林立している。ホコラの背後に立つのもその一つ。（上）寺の下から西方の桂浜方面を望む。（中）山門から見た東の景勝琴平山（下）

国沢さん選管委員に

市選挙管理委員、広井幸喜さんがこのほど辞任し、先月二十九日後任に国沢嘉一さんが選任された。

国沢さんは長岡出身、四十一才、農業。

世界一細いガラス糸

世界一細い糸が日本で生れた。直径がなんと二千分の一ミリ、くもの糸の約二十分の一の細さである。

しかも引張りの強さは鋼鉄線の二～五倍もある。電気を伝えず薬品におかされずせっし五百度の温度にたえる。空気を呼吸すると鼻毛や気管支で一ミクロンのごみまでは取りのぞかれるが、それ以下のごみは肺の中まで入りこんでしまう。これがけい肺の原因である。

この細いガラス糸で網を作り空気をこすと一ミクロン以下のごみも取りのぞくことができる。タバコの煙もこれを通ると澄んだきれいな空気になる。真黒い墨汁もこれでこすと澄んだきれいな水になる。水と油のまじったのをこれでこすと水が飽和するまで油だけが出てくる。

ガラスとは破れ易いものもろいものと考えが普通であるが、細かくすると強くなり、また思いもよらない有用な使い道が出てくるものである。

鉄室（ロケット）

青年国内研修生の手記

37年度国内研修生として、県教育委員会から派遣された日章地区島内征、小松岩実両君の農業に生きる青年として、他県先進地の現状にじかにふれ、体験した報告が出されたので発表することとした。

青年の家での生活

島内征

国立中央青年の家は、御殿場市の富士の裾野、海抜七〇五米のところにあります。＝施設内容は省略

▽起床　六、〇〇
▽朝のつどい　六、五〇～七、〇〇
▽朝食　七、〇〇～八、〇〇
昼食　一二、〇〇～一三、〇〇
夕のつどい　一七、〇〇～一七、三〇
夕食　一八、〇〇～一九、〇〇
入浴　一九、〇〇～二一、〇〇
研修終了　二一、〇〇
消灯　二二、〇〇

以上が青年の家できめられている一般的な生活時間で他の時間つまり八時から十二時までと、午後の一時から五時、七時から九時までが、それぞれの団体、研修生の計画した研修時間になるわけです。

こうした施設に合宿し、共同生活をすることは、それ自体が大切な研修になることで、自主性、共同性、規律性等私達の社会生活上大切な徳目が自然のうちに養われるようになっている。

このことは青年団体の活動者にとっても最も大切なことであり、ここにきて私自身日頃の生活をふりかえり反省させられました。

ここで共同生活をしながら講議をきいたり、研究の討議をしたり、また体育レクリエーションもしました。

（津久井町での酪農研修）

津久井町は、神奈川県の北西部にあって、この町の大部分は山林によって占められ、耕地はその殆んど段立地帯となり、そこに集落があり、水利が悪く、耕作も大変不便なところであります。

農業は、酪農を主体にして経営されています。私はこの津久井町の青野原という部落の農家に分宿し、研修さしていただきました。青野原部落は津久井町でも最も広い耕地をもっているところで農業も機械化され、比較的豊かなところでしたが、その割に台所の改善とか、住関係の改善は余りでなかったように思いました。しかし乳牛をはじめ、酪農経営についての施設設備に力を入れていることであって、酪農に対する力の入れ方に感心させられました。次に感じたことは、非常に家族的で、家庭が明るいということです。

それは家族が分担した仕事をもち、また若い者と年寄りの間がうまくいっているということです。

○酪農状況

この地域での酪農組合員は八〇〇戸、その中で五頭以上飼育している農家が一〇〇戸、とにかく乳牛を飼育している農家は五八〇戸ということです。生産された牛乳は、全部農協を通じて販売され、飼料をはじめその他の機械機具も勿論農協を通じてやっています。

農協は津久井郡四ケ町村の合併によってつくられ、その名も津久井郡農業協同組合となっているのにおどろきました。三年前に合併されたそうですが、よくもここまできたものだと感心させられます。

○分宿農家のこと

私がお世話になった酪農家は、畑六反、乳牛九頭（成牛八、育成牛一）山林二町余の経営規模です。

畑は一反歩に陸稲、他は飼料作物で、この畑は年中利用しているとのことでした。

乳牛一頭の一日搾乳量は約六升（あまりよい乳牛がいなかった）

○実習を通して感じたこと。

▼よい乳牛を飼育すること。

▼一人の労力で飼料畑一～二反あれば一〇頭位は飼育できる。

▼飼料の自給率を高めること。

▼多頭飼育をやること。

▼過剰投資にならないよう計画すること。

津久井町の酪農経営

小松岩実

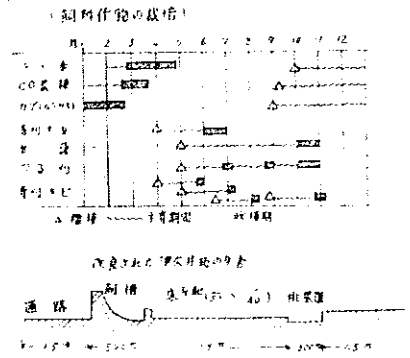
酪農が農業面の牛長部門として見られ、本県においても、西に東に酪農経営農家ができました。

そして、山地酪農、水田酪農として日日の話題をまいている今日、全国的に乳製品の生産過剰の問題がうかび、乳業会社は原乳の値下げをせまるし、牛長部門にもたえずこのような不安な波がおしよせている現状にあります。

そこで、真の牛長部門としての酪農にするため、どのような経営をしたらよいかということになります。＝本県の酪農は後進県にあり、経営規模も小さく一頭かニ頭が多いのですが、ほんとにもうかる酪農となるためには、七、八頭位の多頭飼育に持っていかなければならないということも、よくいわれています。

しかしながら、大規模な酪農経営にふみきるためにも現実的にはいろいろむつかしい問題もあると考えられます。

そのため、私は酪農におけ


飼料作物の栽培
月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
牛舎
ビニールハウス
青刈麦
ソルゴー
ヘイ
ヘイ
ヘイ